

# 解答・解説

## 凡例および注意点

① = 大問番号    ❶ = 段落番号    ❶ = 文番号

### 解答部

\_\_\_\_\_ = 正解部分  
( ) = 省略可能  
[ ] = 直前の語句との入れ換え可能

### 解説部

☞ = 主語    ☞ = 動詞    ☞ = 目的語    ☞ = 副詞 など  
「 」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調  
( ) = 省略可能、あるいは補足・別表現  
【語句】 = 該当箇所の重要語句  
[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント  
⇒ = 派生語・反意語 など  
☞ = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする  
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

### 日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

### 重要語句確認部

☞ = 名詞    ☞ = 動詞    ☞ = 形容詞    ☞ = 副詞 など  
□ = チェック欄  
[ ] = 発音記号  
「 」 = 意味

解答

I

- 問1 都市は創造性、裕福さ、エネルギー効率性において住むには最高の場所であることが多く、典型的な都市生活者は、衛生面、栄養面、男女の平等さ、医療面において、地方と比べてよりよく恩恵にあずかれるから。(94字)
- 問2 都市には、文字どおり誰も発狂させることなく、より多くの人々をより小さな地域に詰め込む方法を考え出す必要が出てくるだろう。
- 問3 私たちは、ただ見るだけの木々や水場、緑の空間があるだけでも、精神的、心理的に恩恵を受ける。
- 問4 短く自然に触れることで、私たちは全体的に、より攻撃性が薄れ、より創造性が高く、より公共心が強く、そしてより健康的でいられる(のかもしれない)。

解説

凡例： ①=段落番号、②=文番号

問1 本文内容の一部を具体的に説明する記述問題。問題文の条件にを正しく満たしたうえで、自然な日本語で、丁寧な字で解答する。不自然な日本語、乱暴な字では採点すらしてもらえない可能性がある。採点官に対する思いやりを忘れてはならない。なお、字数制限がある場合、1割以内の誤差で解答することが望ましいとされる。この場合、「100字以内」とあるので、90～100字以内での解答を心がける。

下線部(a) This momentous urban migration could be a good thing. は「この重大な都市への移動はいいことかもしれない。」の意味。momentous「重大な」は難語だが、指示形容詞 This (名詞 migration を修飾しているので形容詞というだけ) から直前の内容を指すことがわかり、主語の内容は類推できる。①は「都市の人口が増えている」との内容なので、それが「よいこと」である理由を「本文に即して」解答する。

理由は、都市のメリットを説明する、直後の2文で示される。②②～③ Cities are often the most creative, wealthiest and most energy-efficient places to live. 「都市はもっとも創造的で、もっとも豊かで、もっとも効率的な、生活するための場所であることが多い。」 City dwellers typically experience 「都市居住者は典型的に経験する」 better sanitation, nutrition, gender equality and access to health care 「よりよい衛生、栄養、男女平等、それに医療の利用を」 than their rural counterparts. 「地方の同等のものよりも」の部分自然な日本語に訳せば、「本文に即して」の条件を満たせる。

問2 日本語訳の記述問題。自然な日本語になるよう注意し、代名詞などは具体的な内容を明らかにして、できるだけその日本語訳だけで意味が通じるよう心がける。また、意識する際には、英文の要素の抜けがないことを確認する。

下線部(b)は、④ Cities ⑤ will have to figure out 「都市は理解しなくてはならなくなるだろう」 ⑥ how to cram more people into smaller areas 「より多くの人々をより小さな地域に詰め込む方法を」 ⑦ [without everyone ⑧ going literally crazy]. 「文字通り、誰も気が狂うことなく」という構造。前置詞 without が導く副詞句は、前置詞の目的語である名詞 everyone を現在分詞 going 以降が後置修飾する形。

【語句】 figure out 「(像を浮かび上げらせる→) 理解する、考え出す」、how to do 「～する方法」、cram O into ～ 「Oを～に詰め込む」(※ cram school 「(知識) 詰め込み学校、学習塾」で覚えるとよい)、go crazy 「気が狂う、(比喩的に) 熱狂する、夢中になる」(※ここでは、副詞 literally 「文字どおり」により、比喩的な意味が排除されている)

問3 日本語訳の記述問題。

下線部(c)は we benefit mentally and psychologically 「私たちは精神的、心理的に恩恵を受ける」 ⑨ [from having ⑩ {trees, bodies of water, and green spaces just to look at}] 「ただ見るべき木々や水辺、緑の空間を持つことから」という構造。trees から green spaces までは、動名詞 having の目的語であり、to 不定詞(形容詞的用法) to look at の目的語でもある。bodies of water 「水のまとまり」は、具体的には湖沼や池、海など、まとまった水がある場所を表す。

問4 日本語訳の記述問題。

下線部(d)は、⑪ Short exposures to nature 「短く自然にさらされることは」 ⑫ can make ⑬ us 「私たちが～にすることができる」 ⑭・⑮ less aggressive, more creative, more civic-minded and healthier 「より攻撃的

でなく、より創造的で、より公共心の高い、そしてより健康的な」 ⑯ overall. 「全体的に」という構造で、文全体は SVOC の第5文型。助動詞 can は「～できる」(可能)、「～かもしれない」(推量・可能性)のどちらでとらえてもよいだろう。無生物主語の文なので、内容を咀嚼して自然な日本語で訳すことがとくに求められる。

日本語訳

2008年、人類は居住地の重大な境界を越えた。すなわち、都市に住む人間の数が初めて半数を超えたのである。私たちは今や、少なくとも1人の人類学者が提案するように、メトロサビエンスと呼ばれるのかもしれない。そして、それはまだ終わっていない。世界的には、さらに200億人が次の30年で都市に移り住むだろう。2030年までに、インドだけでも都市生活者は5億9千万人になるだろう。中国はすでに半分都市化していて、リベリアも同様で、近年、バングラデシュとケニアの都市生活者の割合は4倍になっている。

この都市への重大な移動はいいことかもしれない。都市が、住むにはもっとも創造的で、もっとも豊かで、もっともエネルギー効率が高いことは往々にしてある。典型的な都市生活者は、地方よりもよい衛生、食事、男女同権、そして医療の利用を得られる。しかし、世界の成長しつつある巨大都市は概して、私たちが望む啓蒙の中心地ではない。コンゴ民主共和国の人口1,100万人を超える都市キンシャサにおいて、1人当たりの年収は250ドルである。ハーバードの経済学者エド・グレイザーは、このような貧しい層を抱える巨大都市がどうすれば「この世の地獄以外のものになりうるのか」と問うた。彼が言うには、キンシャサのような都市を住みやすくすることは、「私たちの時代の大きな課題」なのである。

都市には、文字どおり誰も発狂させることなく、より多くの人々をより小さな地域に詰め込む方法を考え出す必要が出てくるだろう。遡って1965年、動物行動学者のパウル・ライハウゼンは、不自然に混雑した環境で猫に起きたことを述べた。猫は「悪意ある暴徒」と化して、より攻撃的、暴力的になる。類似の状況において、ドブネズミは巣の作り方を忘れ、共食いを始める。限られた霊長類においては、ホルモン系が狂い、生殖率が落ちる可能性がある。では、私たちはどうだろうか。医療文献を大規模に見直すと、都市居住者においては、不安障害が21%増加、気分障害が39%増加、そして統合失調症のリスクが倍化することがわかる。都市の生活は、脳の扁桃核、つまり恐怖をつかさどる中心と、前帯状回脳梁膝周囲部、つまり恐怖とストレス調節のカギとなる領域の、活動の増加に関係がある。

自然の中にいることで人間の脳がどのように改善するかを私は知っていたので、私たちが住む場所、つまり都市に教訓をどのように還元するかを理解するときに来ていた。家に持ち帰るべき必須の考えは次のようなものである。私たちはみな、身近な自然を必要とする。木々や水辺、緑の空間をただ見るだけでも、精神的・心理的に恩恵を受ける。私たちは、学校や病

院、職場や近隣の景観を、だれもが得をするよう賢く整備すべきである。私たちは、感覚を使う自然の地域にすぐに行ける必要がある。だれにでも、都市にある清潔で静かで安全な自然の避難所を利用できる必要がある。短く自然に触れることで、私たちは全体的に、より攻撃性が薄れ、より創造性が高く、より公共心が強く、そしてより健康的でいられるのかもしれない。